スポーツニッポンフォーラム制定「FOR ALL 2018」グランプリ　1949年2月1日の創刊から69年　スポニチ感謝の25000号

桃田

バドミントン世界選手権金メダル

KENTO MOMOTA

西野

サッカー前日本代表監督 W杯16強

氏 AKIRA NISHINO

奈紗

米LPGA 2勝

NASA HATAOKA

●「スポーツニッポンフォーラム」って？

「スポーツ振興支援、国民の健康づくりを語り合い、明るく元気な日本をつくる」ことを目的に官民一体で構成した異業種勉強交流会。開催は年4回で、そのうち1回は表彰制度「FOR ALL」を設けている。表彰者は選考委員会を経て決定。①スポーツを通じて日本を元気づける顕著な働きをした個人または団体。②社会貢献ならびに地域振興に寄与した個人または団体にグランプリが贈られる。

表彰式

スポーツニッポンフォーラム制定「FOR ALL 2018」の表彰式が3日、東京都文京区の東京ドームホテルで開催された。グランプリはバドミントンの世界ランク1位、桃田賢斗（24＝NTT東日本）、女子ゴルフでTOTOジャパンクラシックなど米ツアー2勝を挙げた畑岡奈紗（19＝森ビル）、サッカーW杯ロシア大会で日本代表を決勝トーナメントに導いた、前日本代表監督の西野朗氏（63）が受賞。それぞれ副賞として100万円が贈られた。

感謝を「ずっと」

日本男子初の世界1位も慢心なし「一つ一つ全力で」

桃田は今年の〝Mッ流行語〟に「感謝」を挙げた。「1年間ずっと言っていると思う。これは当たり前のようで、当たり前にするのが難しい。ずっと口に出していきたい」。2日の全日本総合選手権で3年ぶりの優勝を飾ったばかり。疲れの色も見せず、爽やかな笑みを浮かべた。

与えられたチャンスを生かし、感謝の上に努力を積み上げて最高の2018年につなげた。ちょうど1年前の全日本総合選手権では準々決勝で敗退。「A代表には入れないと思っていた」というが、強化本部の推薦で日本代表に復帰した。その期待に応え、8月の世界選手権で日本男子初のシングルス制覇を果たすなど今季すでに8冠。「自分でも予想していないぐらいタイトルが獲れた」と大躍進を遂げた。

五輪3大会連続銀のリー・チョンウェイ（マレーシア）、リオ五輪を制した譚竜（中国）、五輪2連覇の林丹（中国）とレジェンドたちから初勝利を挙げ、9月末には日本男子で初めて世界1位に上り詰めた。周囲の期待は自然と東京五輪での金メダルに向かうが桃田はもっと謙虚だ。「一つ一つ全力で取り組むこと。そうしないと課題も成果も見えてこない。五輪に出ることができたら、その積み重ねが生きてくると思う」。世界最高のプレーヤーは慢心することなく自分を磨き続けている。

（雨宮　圭吾）

◇桃田の今季ここまでの優勝◇

月	大会
3	ベトナム・インターナショナルチャレンジ
4	アジア選手権
7	インドネシアOP
8	世界選手権
9	ヨネックス・ジャパンOP
10	デンマークOP
11	福州中国OP
12	全日本総合選手権

◇桃田賢斗（ももた・けんと）1994年（平6）9月1日生まれ、香川県出身の24歳。福島・富岡高卒。7歳でバドミントンを始める。15年世界選手権男子シングルス3位。16年4月に発覚した違法賭博問題による出場停止処分でリオ五輪出場を逃す。代表に復帰した18年は8月の世界選手権で金メダル獲得。9月には世界ランキング1位となった。左利き。1㍍75、68㌔。

グランプリを受賞し、DAPUMP TUS.A.」ダンスを踊る（左から）バドミントンの桃田、サッカーの西野前日本代表監督、ゴルフの畑岡（撮影・木村　揚輔）

U.S.A.踊って楽しそだねー

全日本制覇から一夜…爽やかな笑顔　今季8冠に「自分でも予想していない」

「対話」を大事に

W杯を振り返り「次にバトンを渡せる大会になった」

初夏の日本を沸かせた功労者が、壇上で激闘を振り返った。西野氏はこの日もおなじみの白いシャツにノーネクタイでダンディーな魅力を振りまきながら「選手が持っているものを発揮し、ドラマチックな戦いになった。次にバトンを渡せる大会にできた」と話した。

今年4月。解任されたハリルホジッチ氏の後任として、当時技術委員長だった西野氏が代表監督に就任した。重視したのは「対話」。ある主力選手が「ハリルさんの時と比べると対話がある」と話すなど、コミュニケーションを密にして戦う組織をつくり上げた。本大会では1次リーグを1勝1分け1敗のグループ2位で2大会ぶりの16強入り。決勝トーナメント1回戦のベルギー戦では〝赤い悪魔〟相手に臆することなく打ち合いを演じた。2－3で敗れ日本史上初のW杯ベスト8入りこそ逃したものの、日本列島を興奮の渦に巻き込んだ。

現在は9日に開催される「JALホノルルマラソン2018」に出場するため、日々トレーニングに励んでいる。この日も「皇居を走ってきた」と爽やかに明かした。新たな挑戦を行う一方で、現場復帰への意欲ものぞかせる。「四半世紀以上現場にいたので、意欲、意思は決して失っていない」。サッカーへの情熱は尽きることがない。

（井上　侑香）

◇西野朗（にしの・あきら）1955年（昭30）4月7日生まれ、埼玉県浦和市（現さいたま市）出身の63歳。浦和西高、早大、日立（現柏）でプレー。攻撃的MFで日本代表として12試合1得点。90年に現役を引退。96年のアトランタ五輪では監督として28年ぶりに日本を本大会出場に導いた。G大阪で05年のJ1優勝、08年のACL優勝などのタイトルを獲得。柏、名古屋などでも監督を務め、J1最多の監督通算270勝を誇る。16年3月に日本協会の技術委員長に就任。18年4月に日本代表監督に就任し、チームを18年W杯ロシア大会ベスト16に導いた。

現場復帰に意欲も…まずは9日のホノルルマラソンに集中「皇居走ってきた」

張本氏が大谷に太鼓判「肘さえ良ければ40発」

トークショー

表彰式の前には本紙評論家の張本勲氏（78）、牛島和彦氏（57）が「2018年野球界総まくり」と題してトークショーを行った。今季の話題として2人はともに「日本一に輝いたソフトバンクの強さ」を挙げ、張本氏は「王（貞治）会長がしっかりしている。まだしばらく強さは続く」と強調した。

牛島氏の古巣・中日では松坂が大幅増の年俸8000万円で合意。営業面の貢献も大きいが、牛島氏は「名古屋では（マスコットの）ドアラのグッズ売り上げがNo.1。松坂のアップは、他の選手は何をしているんだという〝喝〟だと思う」と、張本氏の決めぜりふを拝借して話した。

その張本氏は、新人王に輝いたエンゼルス・大谷の来季について「手術した右肘は、左打者のバッティングで非常に大事。肘さえ良ければ40本塁打は打てる」と〝あっぱれ〟な活躍を期待していた。

トークショーで笑顔を見せる（左から）出光クイさんと本紙評論家の張本氏、牛島氏

☆紙面編集　辻　佳亮

ドアラ＆松坂人気…牛島氏は中日ナインに〝喝〟

母国の応援 力に

2020へ懸ける強い思い「メダル獲れたら注目される」

バドミントン桃田、サッカー日本代表の西野前監督との世界をテーマにした異種目交流。ゴルフの世界でその頂点を目指す畑岡が、改めて2020年東京五輪への熱い思いを語った。

「ゴルフにもホームアドバンテージはあります。母国の言葉の応援は力になります」

畑岡が〝黄金世代〟のライバルたちより一足先に米国に渡った最大の理由は、五輪代表選考の基準となる世界ランクを上げるためには米ツアーが最も近道だから。現在世界ランクは7位。現状のまま2020年を迎えれば東京五輪出場は確実。「ゴルフ人口が減ってる中でみんなが知ってるオリンピックでメダルを獲れたら注目されると思いますから」

東京五輪でのメダル獲得。その思いを強くしたのは米ツアー2勝目となった11月のTOTOジャパンクラシック（スポニチ主催）での優勝だった。「凄く思い出に残る優勝になりました」。世界ランク1位A・ジュタヌガーン（タイ）らそうそうたる顔ぶれが参加した日本開催の米ツアーで凱旋V。この時、畑岡を後押ししたのが母国語での声援だったという。

今季の目標は「米ツアーのシード権獲得」と、米ツアー本格参戦1年目だった昨季の開幕前に立てた「2年以内の優勝」だった。その2つの目標は6月のアーカンソー選手権で達成。19歳5カ月での米ツアー日本勢最年少優勝だった。それからわずか5カ月後に米ツアー2勝目。同ツアーでのマルチ優勝も日本勢最年少での快挙だった。

来年は五輪代表の地位を盤石にする年となる。「1勝したら何勝でもしたい気持ちが、より強くなりました」畑岡のあくなき挑戦は続く。

（石川　勝己）

河野俊史スポーツニッポン新聞社社長から賞を手渡される畑岡

◇畑岡奈紗（はたおか・なさ）1999年（平11）1月13日生まれ、茨城県出身の19歳。母親に影響を受け、11歳でゴルフを始める。15年から世界ジュニア選手権2連覇。17歳だった16年10月に日本女子オープン選手権で史上最年少優勝を果たし、プロに転向。17年から米ツアーに本格参戦し、今年6月のアーカンソー選手権で米ツアー初優勝。19歳5カ月での優勝は日本勢として最年少記録となった。11月にはTOTOジャパンクラシックで米2勝目。名前は米航空宇宙局（NASA）に由来する。1㍍58。

日本最年少Vから「何勝でもしたい気持ちが強くなった」

市橋さん「私も元気もらった」

▲ミス日本が▼みどりの女神が

竹川さん「皆笑顔でうれしい」

ミス日本みどりの女神・竹川智世さん（左）とミス日本グランプリ・市橋礼衣さん

○…2018年度ミス日本グランプリの市橋礼衣さん（24）とみどりの女神の竹川智世さん（21）が表彰式に登場し、美しい立ち居振る舞いで会場を魅了した。2人はアシスタントとして登壇し、市橋さんは白のドレス、竹川さんは青のドレス姿で表彰をサポート。大役を終えた市橋さんは「テレビの中で見ていた方に会えてファンとしてもうれしい。私も元気をもらえた」と興奮冷めやらぬ様子。竹川さんは「試合とは違い受賞者の方も笑顔で、招待者の方も皆笑顔でうれしかった」と感激していた。

遠藤元五輪相 受賞者にエール

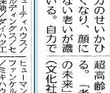
○…懇親会では衆議院議員で東京五輪・パラリンピック組織委員会会長代行の遠藤利明氏が来賓のあいさつを行った一写真。受賞者の西野前監督については「ルールの中でなんとしてもベスト16に行こうという素晴らしい精神だった」と称え、東京五輪での活躍が期待される桃田、畑岡については「桃田選手はJOCが五輪で30個金メダルを獲ると言っている予定の一人で、ぜひ頑張っていただきたい。20年のゴルフで期待できるのは畑岡さん。熱戦で子供たちに感動を与えてほしい」とエールを送った。

東日印刷武田社長「日本を元気にした」

○…懇親会ではスポニチフォーラムに特別協賛している東日印刷の武田芳明代表取締役社長＝写真＝が乾杯のあいさつを行った。受賞者3人については「まさに日本を元気にしたことで表彰された。皆さんから元気を頂いた」と笑顔で称えた。スポーツニッポンをはじめとした全国紙9紙など40紙計250万部を印刷しており、招待者には「スポーツニッポンをぜひ紙で読んでいただきたい」とPRも。最後は「乾杯！」と高らかに発声を行った。

☆紙面編集　中村　綾佳

十字路



牛島　和彦

駅のホームで、階段を駆けりてきた女性と接触。尻もちをついて救急搬送。診断は背骨の圧迫骨折だった。84歳の母のことだ▲40年前に夫（私の父）を亡くしてからは大病もせず、70歳を過ぎてからジムに通い、健康には気をつけていた。数回しか会わないが、健康で幸せな80歳代を過ごしていたと思っていた。だが病院に連れて行ってもらったとばかり思って段差一つもこの街はケガをした老人になんと冷たいことか。歩道を走る自転車や、スマホを見ながら歩く人たちは危険な動く障害物。超高齢化社会を生きる。一老人は自分たちの未来一なのだ。歩けるが、カタツムリの歩み▲母の手を引いて病院へ向かって気がついた。道路の小さなでこぼこ。段差一つもこの街はケガをした老人になんと冷たいことか。歩道を走る自転車や、スマホを見ながら歩く人たちは危険な動く障害物。超高齢化社会を生きる。一老人は自分たちの未来一なのだ。

（文化社会部専門委員）

◇協賛企業◇
◇協賛企業◇ アサヒビール、ANA、ヒューマンホールディングス、ヒューマンホールディングス、ヒューマンホールディングス